



市内事業所の
個性豊かな社長さんや
店長さんなどの意外な交友関係をご紹介。
いつかあなたにも繋がるかも？

いいともバトン：No.4 登場の石山雅春さん ➡ 五十嵐 功さん



五十嵐さんが手がけた移動式ミニハウスの車内で撮影

いいとも No.5

神明町で建築業を営む「(有)マルミホーム」五十嵐 功さん(47)のお友達は、幸町にある電気店「(株)本所屋商店」の三本謙吾さん(41)。お二人は18年前に異業種交流会で一緒になり、五十嵐さんが声を掛けたのがきっかけで親しくなりました。その後、三本さんが五十嵐さん宅から50m先に引っ越してきてからは、長男、次男共に同じ年齢ということもあり、子供たちも含め仲良くしているそうです。男同士、たまに近所の居酒屋で飲む時間も楽しんでいるとのこと。床暖房完備の移動式ミニハウスもこれからの季節には、隠れ家みたいでイイですね！



(株)田辺喜平商店
社長 田辺 敏 夫

当社が創業したのは寛永六年(一六二九年)、三八年に渡り紙問屋を営んでおります。加茂はその昔、紙漉き(かみすき)の盛んな土地といわれていました。初代も加茂紙(和紙)の産地であったことから、紙問屋を始めました。

「山菜でにぎわう七谷和紙の里」「ふるさと加茂かるた」にうたわれた七谷は、かつて手漉(てすき)の和紙であふれていた。障子紙、傘紙、温床紙、梨袋紙、ちり紙など、ほとんどが加茂の紙商人の手を経て販売された。加茂紙と称せられたゆえんである。

その後、明治から大正に

にも、次のように記されています。



花王が創業した当初にもらったというとても貴重な看板です

現在、加茂市では、かつて県内有数の生産量を誇った加茂紙(七谷和紙)の復活に向け、加茂紙の再生事業に取り組んでいます。

かけて400軒を超えるほどの「紙漉家(かみすきや)／和紙の製造者」があり、加茂紙は全国に知れ渡りました。しかし残念ながら、昭和五十年頃、最後の一軒である下大谷の田浦石次郎氏も廃業され、加茂紙の歴史を閉じることになりました。

福祉用具専門相談員として
私たちが、シニアライフを
快適にサポートします

福祉用具の
レンタルも
承ります！

【住 所】加茂市上町7-10
【TEL】0256(52)0063

時代の流れと共に、店頭
に並べる商品も変化してい
ます。紙用品、和紙の他、
お香、香炉、線香、介護関
連商品なども扱うようにな
りました。また、商工会議
所が行う「まちゼミ」を通
じて、和紙の魅力を伝えよ
うと小物作り体験も行って
います。機会がありましたら
ら、お立ち寄りください。